

中口東部国境地域の相互協力と共同発展に関する研究¹

黒龍江大学ロシア研究院副院長・教授 姜振軍

中国東北部とロシア極東・東シベリア地域は、中口両国の経済・社会発展において重要な地位を占めている。中国とロシアはそれぞれ東部国境地域の開発振興の戦略(以下、地域振興・開発戦略)を打ち出しているが、その背景と目標が相互に関連性を持っており、その上に隣接する両地域は生産要素の賦存条件が異なり、産業構造の補完性が高い。このため、中口両国の相互協力を通じて共に地域振興を実現できる可能性がある。

1. 地域振興・開発戦略の関連性

中国政府は、2003年9月に「東北地区等旧工業基地振興戦略実施に関する若干の意見」、2007年8月に「東北地区振興計画」を公表した。一方で、ロシア政府は1996年に「1996～2005年における極東ザバイカル社会経済発展プログラム」、2007年11月に「2013年までの極東ザバイカル社会経済発展プログラム」を採択し、そして2009年12月には「2025年までの極東バイカル社会経済発展戦略」を承認した。中口両国が打ち出した東部国境地域に関する地域振興・開発戦略をみると、その背景、目標と実施策には、かなりの類似性が見られる。

中国の改革・開放以来、経済急成長が続く沿海部は、域内総生産(GRP)、一人当たりGRPなどにおいて、内陸の中・西部との間に大きな格差が存在している。こうした経済・社会発展のアンバランスな状況を背景に、中国政府は地域間の経済格差を是正し、社会安定を図るために、西部大開発と東北振興戦略を打ち出したのである。

中口東部国境地域の地域振興・開発戦略の実行にあたっては、国内投資と企業参加が必要となるが、他方で地域間の経済協力関係を強化し、東アジアまたはアジア太平洋地域との経済一体化を実現することも不可欠である。

中口政府は積極的に「東部国境地域の相互協力を通じて共に地域振興と経済開発を実現する」ことを支持している。また、ロシア極東・東シベリア地域の経済開発への中国企業の参与、および中国側の西部大開発と東北振興へのロシア企業の参与を奨励している。両国の東部国境地域におけ

る経済協力関係の強化は、東アジアとアジア太平洋地域における中口の影響力を高めることに大きな役割を果たすと考えられる。

2. 地域振興・開発戦略における協力の基盤

中国東北部とロシア極東・東シベリア地域は、地理的な接近性に加え、両国の生産要素の賦存条件が異なることや、産業構造の補完性、協力を積極的に取り組む意欲などのプラス要素が多数ある。そのため、両地域の相互協力を通じて共に地域振興を実現する良好な条件がそろっている。

2-1. 要素賦存の差異

要素賦存理論によれば、自然環境や人的資源、技術などの賦存状況が国によって大きく異なる。一国が一つ(または一種類)の商品を専門に生産することは、その商品における比較優位性を持つと考えられる。すなわち、その国は相対的に有利な生産要素を有していること²。

中国東北部とロシア極東・東シベリア地域は、自然資源、人的資源、資金、技術などの生産要素の賦存状況が異なっており、それぞれの優位性を持っている。これは中口東部国境地域の経済協力関係を発展させる重要な基盤となる。

2-2. 産業構造の補完性

中国東北部の原油生産量は全国の約40%、木材生産量は約50%、商品化した穀物の生産量は全国の約3分の1を占めている。東北部の産業構造は、重化学工業、資源型産業を主としている。第三次産業は伸びているが、第一次産業の比重は比較的に大きく、経済発展に対する農業の貢献度は依然として高い。東北部の鋼鉄、原油、大型機械、発電設備、自動車、化学工業原材料、木材、食糧などは、中国にとって重要な位置を占めている³。

中国東北部には、一部の基幹産業および中核企業がある。たとえば、機械製造業において東北三省は全国の3分の1を占めている。石油化学工業において東北三省の原油加工量は全国の約30%、エチレン産業は約25%となっている。

¹ 本稿は、黒龍江省哲学社会科学規画プロジェクト「ロシア東部地域経済開発と中国東北旧企業基地振興の相互協力に関する研究」(プロジェクト番号:08B024)、黒龍江省教育庁人文社会科学プロジェクト「中口エネルギー協力に対するロシア東北アジア戦略の影響」(プロジェクト番号:11542006)における段階的な成果である。

² 於永達ほか『国際経済学新論』清華大学出版社、2007年、98ページ。

³ 曹陽・趙英才・馬林ほか「東北経済区産業結構特徴と区域発展模式探析」『吉林大学社会科学学报』2007年第6期。

鉄鋼の生産量をみると、東北三省は全国の12.5%を占めている。船舶製造業では造船量が全国の約3分の1、自動車製造業では全国の約25%を占めている。

ロシア極東・東シベリア地域では、農業、軽工業、重工業の産業間および産業内のバランスがとれておらず、重工業とエネルギー原材料への依存傾向が強まっている。他方、農業、林業、軽工業、建築材料製造、石油化学工業などがかなり遅れている。このように、中ロ東部国境地域の産業構造の補完性が、経済協力を展開していく上で重要な前提となる。

2-3. 協力の意欲

地域協りに意欲を見せる中国東北部とロシア極東・東シベリア地域は、経済貿易協力や相互投資、多分野での協力強化、地域経済の一体化の実現を望んでいる。

3. 振興と開発相互協力の展開

中ロ両国が以下の分野の協りに優先的に取り組むことは、東部国境地域の振興と開発戦略を実現する最も有効な方法の一つと考えられる。

3-1. 木材貿易

急速な経済成長に伴い、中国の木材需要量は増加の一途を辿っている。2006年に発表された中国森林資源調査の結果によると、その時点で中国の木材供給不足量は2億立方メートルに達しており、2015年には3億立方メートルまで拡大していく見込みである。不足分は主に輸入で補うことになるが、その最大の原木供給国はロシアである。2006年、中国がロシアから輸入した原木は2,183万立方メートルで、原木輸入全体に占める割合が70%にのぼった。2007年には、ロシアから2,539万立方メートルを輸入し、中国の原木輸入全体の68.45%を占めた⁴。2008年の原木輸入量は1,964万立方メートル、2009年は2,000万立方メートルとなっている。

ロシアからの木材輸入量を口岸（通関点）別で見ると、満洲里、綏芬河、ニレンホト口岸がトップ3を占めている。満洲里口岸の輸入量は2001年の299.72万立方メートルから2007年の1,148.71万立方メートルへ、綏芬河口岸の輸入量は2001年の320.72万立方メートルから2007年の769.09万立方メートルへ、ニレンホト口岸の輸入量は2001年の167.61

万立方メートルから2007年の327.43万立方メートルへと急増した⁵。

しかし、ロシア政府は2006年1月から原木の輸出関税率を引き上げてきており、原木の輸出を制限している。2008年4月、原木の輸出関税率を25%まで引き上げ、そして15ユーロという1立方メートル当たりの最低単価を設けた。さらに、ロシア政府は2009年1月から原木輸出の関税率を80%へ、1立方メートル当たりの最低単価を50ユーロへ引き上げた。国内木材加工業の保護について、ロシアが連続的に原木輸出の関税率を引き上げる狙いとみられるが、ロシア国内の労働力や生産技術、設備などの条件を考えると、木材関連産業の集積を形成するまでには、まだ長い歳月を要すると考えられる⁶。

ロシアの木材輸出政策の変化に対して、中国の木材加工企業が迅速に対応してきた。中国企業は積極的に「走出去」（海外進出）戦略を実行し、ロシアに木材加工工場、またはロシア側との合弁企業を設立している。中国企業のロシア進出によって、木材の輸入が確保されるだけでなく、ロシアの木材加工業の雇用創出にも貢献できる。

3-2. エネルギー分野

(1) 石油

ロシア極東・東シベリア地域は自然資源が豊富であり、石油、天然ガスなどエネルギー資源の埋蔵量も多い。東シベリア地域だけで、すでに40カ所の油田が発見され、石油埋蔵量は7億トン、天然ガス埋蔵量は4億立方メートルとなっている⁷。

中ロ両国が鉄道による原油貿易を拡大するなか、ロシアから陸路で中国に輸送される石油輸送量をみると、2004年の900万トン、2005年の1,000万トン、2006年の1,030万トン、2007年の1,500万トン、2008年の1,164万トン、2009年1~10月の1,290万トンとなっている。さらに2010年以降、鉄道によるロシアから中国への年間石油輸送量は1,500万トンになると見込まれている⁸。

中ロ間の協力文書に基づき、中国はロシア側に250億ドルを融資することと引き換えに、ロシアはパイプラインを通して2011~2030年の間に合計3億トンの原油供給を約束した⁹。2010年末に中ロ石油パイプラインが完成し、2011

⁴ 「中俄木材貿易発生結構性変化、板材進口前景看好」 <http://www.jiajuzhijia.com/news/show.php=1425>。

⁵ 同上（注4）。

⁶ 「木材企業“走出去” 開展中俄木材加工合作」『経済参考報』2008年9月24日付。

⁷ 「俄羅斯遠東等待開發」『環球時報』2003年12月15日付。

⁸ 「俄羅斯通過鐵道向中國出口石油快速增長」 <http://gov.finance.sina.com.cn/zsy2007-03-15/99882.html>、「中国石油進口和石油消費持續增長」 <http://www.in-en.com/oil/html/oil-0440044025576841.html>。

⁹ 「中俄簽250億美元石油貸款協議 中獲俄3億噸石油」 <http://news.163.com/09/0218/00/52D5R5RPC.html>。

年から正式に運営開始する予定である。

(2)天然ガス

天然ガスの協力については、2006年3月21日にプーチン大統領（当時）が訪中した際、ロシアがガスパイプラインを中国まで敷設することを発表した。また、中国石油天然ガス集团公司（CNPC）とロシアのガスプロム社は、「CNPCとガスプロムのロシアから中国への天然ガス供給に関する覚書」に調印した¹⁰。

2009年10月12日、中ロエネルギー投資株式会社が北京で設立されたが、翌日には、ロシアのSuntarneftegaz社の株式を51%取得し、同社が所有していた東シベリア地域の貯蔵量600億立方メートル規模の天然ガス田2カ所の探査・採掘権を確保した。これは2006年6月に調印された「天然ガス分野協力に関する了解覚書」に基づき、初めて実現された天然ガス分野の協力事例である¹¹。

(3)電力

中ロにおける電力分野の協力が順調に進んでいる。1992年7月、1本目となるブラゴベシチェンスク（ロシア）～黒河（中国）の越境送電線が建設された。1996年には、2本目となる中ロ越境送電線がロシアのシワキから中国の大興安嶺十八駅に送電された。2005年7月、電力分野における中ロ両国の大規模な協力が幕を開け、2006年にはピークをむかえ、その後は次第に減少傾向にある。

ただし、2010年に入ってからポストーク電力システム社が中国への電力輸出を強化しようとしている。まず第1段階では、アムール州に送電線、ハバロフスク州に蒸気式発電ユニットを建設する。これらのプロジェクト建設が完成すれば、中国への送電量は年間40～50億キロワット時になる。第2段階では、中国に180億キロワット時の電力供給に関する契約を調印する¹²。

2005～2008年の間、中国の黒龍江省はロシアから14.37億キロワット時の電力を輸入した。2009年3月、黒龍江省電力有限公司は初めて「辺境小額貿易」方式を利用してロシアから241万ドルの電力を購入したが、その後ロシアからの電力輸入量が次第に増え、2009年はこれまでの記録を更新した。黒龍江省電力有限公司は、2010年にロシアから10億キロワット時を購入する予定で、輸入総額は4,000万

ドルを超えるとみられる¹³。

3-3. 鉱産・エネルギー採掘

ロシアは豊富な金属鉱物資源を持っており、金、銀、亜鉛、スズなどの鉱産物が多く埋蔵されている。たとえば、マガダン州は世界最大規模の金の産地の一つで、サハ共和国のダイヤモンドが世界でも有名である。東シベリア地域は、鉄鉱石の埋蔵量は40億トンに達し、非鉄金属鉱物資源も豊富である。ザバイカル地域ではウォルフラム、銅、スズの埋蔵量が豊富である。また、極東地域では、鉄の含有量の高い鉄鉱石資源が多く、たとえばピオネールスクとシワグリンスクの鉄鉱石の埋蔵量は14億トンに達し、その鉄鉱石の鉄の含有量が40%を超えている¹⁴。

ロシア極東・東シベリア地域は豊富な鉱物資源を有するが、鉱業技術・設備が遅れていることに加え、人材、資金、労働力の不足問題も抱えている。その一方で、中国企業がこれらの鉱業開発の問題を解決できるため、中ロにおける鉱産物の需給均衡により、緊密な協力関係を構築することが期待できる。

ロシア・ユダヤ自治州に進出した中国企業が年間2万トンのマンガン鉱石を20年間採掘する許可書を獲得した。また、黒龍江省の紫金龍興鉱業有限公司は、2007年12月にロシアのクィズイル～タシュトケドで金属鉱山プロジェクトへの投資が許可された。さらに、2007年には、遼寧省の西洋集団が山東省の魯能集団からロシア・チタ州のベレゾフ鉄鉱の株式を90%以上取得した。このベレゾフ鉄鉱の埋蔵量は4.47億トンに達し、鉄鉱石の鉄の含有量が42～46%となっており、鉛と亜鉛の含有量も多い¹⁵。

3-4. 科学技術

中ロ戦略協力パートナー関係にとって、科学技術協力は重要な一部分となっており、その潜在力は大きい。黒龍江省の場合、2005～2008年に、ロシアから300件のハイテク技術を導入したが、うち産業に応用されたケースが55件にのぼる。

2009年9月23日に発表された「中国東北地区とロシア極東・シベリア地域の協力に関する計画要綱（2009～2018年）」（以下、「計画要綱」）では、科学技術協力パークを発展させることが含まれている。具体的には、ハルビン市と牡丹

¹⁰ 姜振軍『俄羅斯国家安全問題研究』社会科学文献出版社、2009年、381ページ。

¹¹ 「中俄合資公司獲俄氣田開採權」<http://news.cnpc.com.cn/system/2009/10/15/001260931.shtml>。

¹² 「俄中電力能源合作没有大分歧」<http://www.nengyuan.net/201003/27-563251.html>。

¹³ 「2009年中国自俄羅斯進口電力量猛增300多倍」<http://www.e-to-china.com.cn//2010/0325/75294.html>。

¹⁴ 「中俄再談鉅産聯合勘探開發重点為外貝加尔山区」<http://www.cdjhx.com/html>。

¹⁵ 「中国鉅企投資俄羅斯商業模式」<http://www.chinaruslaw.com/CN/CnRuTrade/Energy/2009715.htm>。

江市の中口情報産業パーク、長春市の中口科学技術協パーク、遼寧省の中口科学技術パーク、大連市の中口ハイテク産業化基地、ウラジオストクの中口情報パーク、パルチザンスクの中口技術イノベーション実験プラットフォーム、アムール州の中口農業技術産業化センターなどを指す。

3-5. 工事請負と労務

中口における工事請負と労務の協力は、農業や養殖業、工事請負などの分野を中心に、「ロシアでの中国国民の短期労務および中国でのロシア国民の短期労務に関する中口協定」という枠組みの中で実施されている。

2000～2008年、ロシア極東ザバイカル地域の経済部門に就労している中国人は、5万人以上に達した¹⁶。黒龍江省の場合では、2010年1～3月に対口工事請負・労務の新規契約は8つ、契約金額は1,634万ドル、実行額は348万ドル、労務人数は891人となっている。また、2009年における吉林省の対口工事請負・労務の新規契約金額は1,410万ドル、取引高は1,573万ドルに達し、労務人数が1,500人になった¹⁷。

3-6. 観光

中口東部国境地域は豊富な観光資源に恵まれている。中口両国は「団体観光旅行のノービザ化に関する中口政府協定」という枠組みの中で観光協力を推進している。

2008年に、ロシアへの中国人観光客は8.6万人となり、うち極東地域への中国人観光客が全体の56%を占めた¹⁸。

「計画要綱」において、中口東部国境地域の観光について具体的な行動計画が策定された。その中で、観光施設の建設、新たな観光ルートの開拓、中口で開催される国際観光フォーラムへの参加と協力、観光業展示会開催の促進、国境地域観光ルートの協調、観光ルートの連携と延長などが含まれている。

3-7. 国際輸送ルート

2008年11月、胡錦濤主席とロシアメドベージェフ大統領がペルーで会見する際に、「中国とウラジオストク港を結ぶ陸海複合一貫輸送」のような北東アジア鉄道輸送ネットワークの建設に向けた相互協力を行っていくことで合意した。

黒龍江省で実施される重要プロジェクトの一つとして、「ニジニレンスコエ～同江」黒龍江大橋プロジェクトが挙げられる。2008年末に、中口政府は「ニジニレンスコエ～同江」黒龍江大橋の共同建設に関する調印式が開催された。この共同プロジェクトは、中口の経済一体化のプロセスを加速させると同時に、アジア太平洋地域における経済一体化を促す具体的な取組みでもある。この国際橋が完成すれば、ロシアのシベリア鉄道が中国の鉄道とつながり、新たな輸送ルートとなることが期待される¹⁹。

黒龍江省にとってもう一つ重要な中口協力プロジェクトは、ナホトカ・コンテナ港の共同建設である。牡丹江市城市投資集団有限公司は韓国の釜山港湾公社、ロシア極東輸送グループと合弁会社を設立し、ナホトカ漁港を改造して国際ハブ港を建設する。このコンテナ港が完成すれば、北東アジアを経由して欧米にもつながり、世界をつなぐ国際輸送ネットワークを形成することが期待できる²⁰。

2009年3月、吉林省とロシア沿海地方は「図們江輸送回廊の建設推進に関する会議要旨」に署名し、中口企業がザルビノ港を利用することで合意した。琿春～マハリノ鉄道の開業に向けて、吉林省はロシア沿海地方政府およびロシア鉄道に対し、迅速にコミショールバヤ駅の共同施設を完備させ、2010年内に運営を開始するように協力を求めた。これと同時に、ザルビノ港に対する中口企業の共同開発・利用を推進し、人流、物流を支える陸海複合一貫輸送の整備などの協力にも働きかけている²¹。

「計画要綱」には、鉄道利用の国際輸送ルート、境界河川利用の国際航路、国際陸路輸送ルートの開設、国境地域の航空輸送ネットワークの構築など輸送関連の14つのプロジェクトが含まれている。

4. 地域振興・開発戦略への提言

第一に、地域振興・開発を国家安全保障戦略のレベルに据えること。中口東部国境地域の振興と開発は、国内の地域発展不均衡を是正し、国境地域の社会安定と経済発展を維持し、国家安全保障を確保する上で、重要な意義を持つ。東部国境地域の協力は中口戦略協力パートナー関係の重要な部分であり、協力関係の強化や、産業移転の促進、技術格差の縮小、国境地域の共同繁栄を実現すれば、両国の国

¹⁶ 竺延風「立足図們江区域開發開放、扎实推進中俄地区合作—在中俄地区合作座談会上的發言」http://dbzxs.ndrc.gov.cn/zehzdt/ghzc/zywj/t20100220_331067.htm。

¹⁷ 竺延風、前掲（注16）。

¹⁸ A. Г. 布雷「21世紀初俄只在遠東地区的合作成果」『西伯利亞研究』2009年第4期。

¹⁹ E. Я. 弗里斯曼ほか「犹太自治州与中国大項目合作前景」『西伯利亞研究』2009年第4期。

²⁰ 朱乃振「全力打造中俄縁辺開放先導区」『西伯利亞研究』2009年第4期。

²¹ 竺延風、前掲（注16）。

家安全保障においても重要な役割を果たせると考えられる。

第二に、中ロ協力関係において地域振興・開発戦略を優先的に推進すること。2007年3月、中ロ首脳は両国の地域協力を強化することで合意し、そして国境地域間の協力は中ロ関係にとって重要な一部であることを強調した。さらに、2009年9月23日に中ロ首脳が「計画要綱」に署名した。「計画要綱」について、中ロ国境地域協力を推進する上で重要な意義を持つと、胡錦濤主席は強調した。そして、「計画要綱」の批准は中ロ関係が一層成熟・安定化している代表的な事例であると、メドベージェフ大統領も高く評価した。広範な分野におけるプロジェクトが多く明記された「計画要綱」の批准と実施は、中ロ協力関係に大きな影響を与えており、国境地域の経済・社会発展のけん引役になる²²。

第三に、重層的な地域協力メカニズムを確立し、強化すること。プロジェクト、資金、労働力配分などにおいて域内競争が存在するため、有効な地域協力メカニズムを確立し、地域間協力関係を調整すると共にメカニズムを強化することが重要である。

「計画要綱」では、口岸（通関点）のインフラ整備や、輸送分野の協力、科学技術産業パークの建設、大ウスリー島（中国名:黒瞎子島）の共同開発と環境保護、農業・遊牧業・工事請負分野における労務協力、観光、人文領域、環境保護、鉱山開発など200以上の協力プロジェクトが明記され、東部国境地域における経済協力の促進と相互投資の拡大が期待されている。その一方で、中ロの協力がうまくいかない場合、プロジェクトをめぐるトラブルや、重複開発、重複投資などのおそれがある。そのため、筆者は中

ロ首相定期会談委員会の中に「中ロ協力調整小委員会」と「東部国境地域協力調整機構」を設置し、各レベルにおける協力メカニズムの創設を提言したい。この枠組みを通じて、中ロ地域間協力における新たな問題をすばやく把握して解決し、共同で協力プロジェクトを計画して資源節約と効率化を図る。

第四に、「互恵・ウィンウィン・共同繁栄」という持続可能な発展を目標とした理念を持つこと。東部国境地域の協力関係強化と地域振興・開発は、共通利益の追求、多元的な主体の参加、協力分野の拡大、経済協力関係の推進を図るために、「互恵・ウィンウィン・共同繁栄」の理念と目標を明確にする必要がある。

第五に、中ロ地域経済協力区を建設すること。経済の地域統合が進む中、中国にとって、地域経済協力への参加は、周辺国家との互恵協力関係の強化、国際競争力の向上における重要な基盤であると同時に、国境地域の経済成長をけん引して地域共同発展を実現するための有効な方法でもある²³。

第六に、中ロ東部国境の口岸（通関点）都市を重点的に発展させること。口岸都市経済が高成長を維持することで、周辺地域の経済発展を促す大きなけん引力となり、国境地域全体の共同発展を促す。

第七に、中ロ地域協力発展基金を設立すること。中国とロシアは関連金融機構と連携しながら中ロ地域協力発展基金を共同で創設し、多様な方式でインフラ整備、エネルギー分野の協力、地域協力の重点プロジェクトへの資金支援を行うことが望まれる²⁴。

²² 「深化中俄地区合作〈規劃綱要〉、共同開創兩國合作新局面」 <http://jl-expressway.com/index.html#11499>。

²³ 「中国在区域經濟合作大趨勢下的決措與作為」 <http://www.gov.cn/zxft/ft17/29/05/2007>。

²⁴ 前掲（注22）。

Research into the Mutual Cooperation and Collaborative Development in the Eastern Border Areas of China and Russia

JIANG, Zhenjun

Deputy Director and Professor, Russian Institute, Heilongjiang University

Summary

China and Russia, through having created their respective economic development strategies in the Northeastern region and the Far East and Eastern Siberian regions, have brought about a huge opportunity for mutual cooperation and collaborative development in the eastern border areas of China and Russia. In particular, in September 2009 both countries ratified the "Program of Cooperation between the Northeastern Region of the People's Republic of China and the Far Eastern and Eastern Siberian Regions of the Russian Federation (2009-2018)" and regarding this program they have shown the direction for future economic cooperation and reciprocal investment in the eastern border areas of China and Russia. Within the program more than 200 projects have been specified including: the upgrading of the infrastructure at customs points; cooperation in the transportation sector; the construction of science and technological industrial parks; joint development and environmental protection of Bolshoy Ussuriysky Island (Chinese name: Heixiazi Island); cooperation on labor in the sectors of agriculture, nomadic herding and construction work contracting; reciprocal cooperation in tourism, the humanities, and environmental protection; and the development of mining.

For the economic development strategies of the Northeastern region of China and the Russian Far Eastern and Eastern Siberian regions, the background to the formulation of the plans and their objectives are very similar, and the concrete measures for the implementation of policy are also alike. Between the adjoining regions, the fundamental elements for cooperation are in place, including differences in the presence of essential factors, and the mutual complementarity in industrial structures. Consequently, it could be said that they have fulfilled the objective conditions toward reciprocal cooperation and joint development in the eastern border areas of China and Russia in sectors such as timber, energy, mining development, science and technology, agriculture, tourism, and international distribution.

In order to promote subsequent reciprocal cooperation and joint development of the Northeastern region of China and the Russian Far Eastern and Eastern Siberian regions measures are required including: "incorporating interregional cooperation, stimulatory measures, and economic development into national security strategies"; "establishing economic cooperation zones in border areas, etc."; "building and strengthening the multilayered links between regions and coordination mechanisms"; and "setting up a sustainable philosophy of cooperation which encourages the realization of reciprocal cooperation and joint development, advancing joint development with the customs points as pivots and turning crisis into opportunity".

[Translated by ERINA]